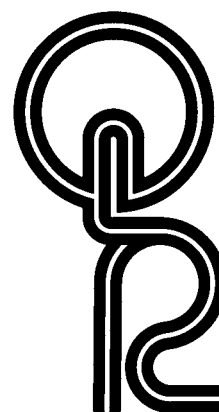


# QR Newsletter



## 第四紀通信

Vol. 22 No.6, 2015



国際第四紀学連合第19回大会の開会式にて挨拶する小野 昭・日本第四紀学会会長(右)とD. Margaret Avery・国際第四紀学連合会長(左)。名古屋国際会議場にて。2015年7月27日。

---

Vol. 22 No. 6

December 1, 2015

---

INQUA 第19回大会開催報告..... 2	JpGU2016年大会のお知らせ..... 8
大会 公開シンポジウム報告..... 3	2016年大会案内(第2報)..... 8
2014年学術賞受賞者講演会報告..... 4	研究委員会の募集のお知らせ..... 9
大会 若手・学生発表賞の報告..... 5	INQUA プロジェクト等の募集..... 10
2015年受賞者講演会のお知らせ..... 6	日本学術会議報告..... 11
評議員会案内..... 6	幹事会議事録..... 11
学会賞・学術賞候補者推薦募集..... 6	会員消息..... 12
論文賞・奨励賞候補論文推薦募集..... 7	

---

## ◆国際第四紀学連合第19回大会開催報告

吾妻 崇（産業技術総合研究所）

2015年7月26日（日）から8月2日（日）にかけて、名古屋国際会議場を会場として国際第四紀学連合第19回大会が開催されました。大会前後および中日には巡検が実施され、また、大会に先立って5回の普及講演会が開かれました。大会参加者数は同伴者を含めて1789名であり、そのうち海外からは67の国と地域から1312名が参加し、日本からは477名が参加しました。展示ブースコーナーには、次期大会の開催申請をしていた3カ国（アイルランド、イタリア、スペイン）を含め、22の企業および団体が出展しました。この大会は、日本学術会議との共同開催であったほか、54の学術団体や研究機関および地元自治体から共催、後援、協賛を受けていました。この大会では「第四紀学からみた気候変動・自然災害・文明」を大会メインテーマに掲げるとともに、(1)自然災害軽減のための第四紀研究、(2)気候・海水準・環境変動予測高度化のための過去の変動の理解と定量化、(3)人類と環境の動的相互作用の解明、(4)第四紀層序学・年代学のための新しい技術と成果の統合、を主要題目として、日本における第四紀学の特徴を打ち出していくことが試みられました。

大会初日には、名古屋国際会議場のセンチュリーホールにおいて、開会式、総会、受賞記念講演、が開催されました。開会式は天皇皇后両陛下の御臨席を賜りました。そのこともあって開会式は事前登録制となり、厳重な警備体制が敷かれましたが、約900名の参加がありました。受賞記念講演では、The Liu Tungsheng Distinguished Career Medalを受賞したAnn G. Wintle氏、The Sir Shackleton Medalを受賞したRobert E. Kopp氏、そして今大会から新たに設けられたThe INQUA Distinguished Service Medalを受賞したNathaniel Rutter氏が講演を行いました。また、その日の夜

には同会議場の白鳥ホールにおいてウェルカムファンクションが催され、名古屋市長からの歓迎の挨拶を頂くとともに、和太鼓の演奏を参加者に楽しんで頂きました。

学術プログラムについては、今大会では先進的な研究を実践している9名の研究者（うち日本人研究者が4名）を招待して、基調講演を行って頂きました。また、特別セッションとして「Future Earth」に関する講演会が大会2日目の7月28日（火）午後に開催され、日本人講演者2名を含む4名の講演が行われました。一般発表については、講演総数が2113件で、口頭発表が1191件、ポスター発表が922件でした。口頭発表は、6日間にわたって14会場で122のセッションが行われました。分野別のセッション数は、古海洋環境が15、生物と人類圏が34、古気候が36、層序・年代が9、陸域プロセスが24、その他一般が4でした。ポスター発表は4日間開催され、毎日200件以上の色鮮やかなポスターがボードに貼り出され、熱心な議論が繰り広げられました。若手研究者や学生によるポスター発表を対象とした審査が行われ、12名が若手ポスター賞に選ばれ、最終日の総会時に表彰されました。一般発表終了後の夜間には、ビジネスミーティングが開催され、INQUAの各Commissionや研究グループの会合が開催され、新たなInter-congressの活動についての話し合いが行われました。また、大会期間中にINQUA加盟国の代表者が出席する国際評議員会が3回開催されました。この会議では、次のINQUA執行役員の選挙や次大会の開催国を決める投票、INQUA終身名誉会員の決定などについて審議されました。日本からは町田 洋元会長が終身名誉会員に推薦され、承認されました（日本人としては8人目）。そして、次回の大会はアイルランドのダブリン市



天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、大会開会式は厳かに執り行われました。2015年7月27日、名古屋国際会議場にて。

で開催されることが決まりました。

大会最終日の前日の8月1日の夜には、浩養園を会場としてコンgresディナーが催され、410名が参加しました。バーベキュー形式のビアガーデンは、海外の参加者にも評判がよかったようです。大会最終日には、総会が行われ、国際評議員会での決定事項が発表されました。また、総会後にフェアウェルファンクションが催され、参加者のみなさんは暑い名古屋での大会の思い出を振り返って談笑し、次回の大会での再会を約束していったことと思います。

大会巡検は、大会前に1コース、大会中日に13コース、大会後に5コースが実施されました。最も人気が高かったのが大会後に開催された北アルプスを越えるコースで、募集人数が他のコースと比べて少なめであったこともあります。参加募集を開始して一週間程で定員に達してしまい、その後も空席がないか問合せが絶えない状況でした。また、琵琶湖と水月湖に行くコースや京都の活構造を見に行くコースは、大会前後と中日の両方で開催しました。各コースの案内者に綿密な準備をして頂いたおかげで、全ての巡検が無事故で終わることができました。

また、今回のINQUA大会日本開催をきっかけとして「第四紀学」の存在を多くの人に知らうために、7月に入ってから大会に先立って名古屋周辺で普及講演会を5回開催しました。7月5日には名古屋市科学館のサイエンスホールで「第四紀学で読み解く地球の歴史」を、7月11日には三重県総合博物館で「東海層群の昆虫化石」を、7月19日には豊橋市自然史博物館で「豊橋周辺の第四紀化石」を、7月25日には名古屋大学で「第四紀学研究から明らかとなった地球環境」を、7月26日に名古屋大学で「第四紀年代学、古気候学、考古学が解き明かす人類進化史の真相」をそれぞれ開催しました。これらの講演会を通じて、一般市民の第四紀学に対する関心を増幅することができたと思います。

なお、今大会の運営にあたっては、第四紀学研究に携わる、あるいはそれに近い分野で、総勢100名を超える学生および若手研究者に大会サポーターとして支援をしていただきました。サポーターには青いスタッフシャツを着て頂き、発表会場での進行補助や昼食の配布のほか、会場の設営・撤収やゴミの回収まで行って頂きました。これらの学生にとって、自身が研究する分野の最先端の研究者と直接話ができて顔見知りになった経験が、今後の彼らの研究にプラスの作用を生み出してくれることを期待します。

INQUA名古屋大会を終え、日本第四紀学会は設立60周年を迎えようとしています。この大会開催は学会にとって長年の夢ではありましたがこれで終わる訳ではなく、これをきっかけとして第四紀学にかかわる幅広い分野における今後の国内研究の充実と国際展開を促すことができるように学会活動を発展させていくことが期待されます。



大会開会式前日のレセプションでは、天皇皇后両陛下が大会関係者と御歓談されました。2015年7月26日、名古屋観光ホテルにて。

## ◆日本第四紀学会 2015年大会公開シンポジウム参加報告

秋田大学地域創生センター 鎌滝孝信

2015年8月30日の9:30～12:30に、早稲田大学14号館201教室にて日本第四紀学会2015年大会の公開シンポジウム「第四紀学から防災教育へのメッセージ」が開催され、第四紀学の研究者ならではの視点から、防災教育の事例や今後の展開についての議論がなされた。講演者およびその演題は、東北学院大学の宮城豊彦先生が「第四紀学を踏まえて作る地域防災・減災の処方箋はあるか」、滋賀大学の藤岡達也先生が「持続可能な社会と地域防災、学校防災—なぜ自然災害の悲劇は繰り返

されるのか、防災教育の限界と希望—」、鹿児島大学の井村隆介先生が「防災教育で何を教えるか?—学校と地域の連携:霧島市と志布志市での実践例をもとに—」、新潟大学の卜部厚志先生が「中学生に向けた防災教育の取組—地域の地震と洪水リスクを考える試み—」、千葉科学大学の植木岳雪先生が「危機管理から見た防災教育:第四紀学の視点...防災に関する一般市民向けの講演の事例から」であった。また、総合討論では、上記の先生方に加え、産業技術総合研究所の穴倉正展先生

および和歌山大学の此松昌彦先生が加わり活発な議論がなされた。

シンポジウムでは、それぞれの演者が関わる防災教育の事例を紹介した上で、1) 第四紀学の研究者が地域の成り立ちの分析・理解とそのマッピングに長けていることを活かすことによって地域防災に貢献できること、2) ジオパークを地域の防災・減災に活用すること、3) 教育を受ける者が生活する地域の災害環境に応じた災害を選択した教育内容とすることで、受講者が防災をより身近な問題として考えられるようになることが期待できること、4) 外部から派遣される講師はあくまで教育現場での取組を支援するもので、学校現場では当事者である学校の先生方が主体的に防災教育に取り組む必要があること、5) 普段の授業と関連づけられる防災教育プログラムを組み、各学年の発達段階に応じた内容を継続的に教育すること、など、第四紀学の研究者が防災教育に携わる上での示唆に富む議論がなされた。

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖

地震が引き起こした東日本大震災以降、教育、行政現場では防災教育の重要性が再認識されており、私が所属する秋田大学地域創生センターでも秋田県教育委員会が実施する「防災教育外部指導者派遣事業」や、秋田県総合防災課が実施する「自主防災組織育成指導者研修会」等に参加している。私自身も幼稚園児から大人まで幅広い年齢層を対象として防災教育に携わっているが、東日本大震災から4年半が経過した今、防災教育の現場に立つと震災直後に比べて子どもたちや一般市民の方々の防災意識が低下していることを強く感じる。そのような現状を打破していくためにも、シンポジウムで議論された内容をもとにもう一度自分の携わる防災教育の内容を見直さねばならないと感じた。今後、第四紀学の研究者が防災教育に関わるケースは、今まで以上に増えていくことであろう。今回のようなシンポジウムは、防災教育に関わる第四紀学の研究者同士の情報、意見交換の場として、今後も開催していく必要があると強く感じた。

## ◆ 2014年学術賞受賞者講演会報告

### ● 高橋尚志（東京大・D1）

2015年8月29日（土）、日本第四紀学会2015年大会会場である早稲田大学早稲田キャンパス14号館102教室にて、日本第四紀学会2014年学術賞受賞者講演会が開催され、阿部彩子会員による「第四紀の氷期・間氷期サイクルの謎を追って」の講演が行われた。

阿部会員は、数値シミュレーションを用いた氷期・間氷期サイクルと古気候モデリングに関する一連の研究が評価され、今回の受賞に至った。阿部会員は「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」



講演中の阿部彩子会員

報告書の執筆者にも選出されており、冒頭では「過去の気候変動とその要因をより詳細にかつ適切に評価・把握し、それを踏まえて今、適切な行動を行うことで、将来の気温上昇をより効果的に抑えることができる」と述べられ、過去の気候変動に関する研究の重要性を強調された。

阿部会員の研究の特色は、最近100万年間の気候変動を特徴づける10万年周期の氷期・間氷期サイクルの要因を説明するために、大気海洋結合大循環モデル(AOGCM)と氷床の三次元物理モデルを組み合わせた点である。阿部会員は、アイソスタシーによる基盤の応答の遅れが氷期・間氷期サイクルに大きく影響する仕組みを分かりやすく解説された。また、阿部会員は、「学生時代には地理学科に所属し、氷河や海水準の変動の研究に関わっていた」と、当時の写真をスライドで紹介しながら話されていた。気候変動システムを明らかにするために、従来研究に用いられていたAOGCMに限らず、地表における氷床の消長にも着目するという阿部会員独自の視点は、このような学術的背景があったことで培われたのだと感じた。新しい視点によって学問全体が進歩していくためには、研究者各々が学際的な視点を持ち、積極的に他分野への理解・進出を行っていくことが重要であろう。

講演の最後に阿部会員は、「現在の気候をより正確にモデリングし、過去の気候変動の情報をそれに入力することで、将来の気候変動を更に精度良く評価していきたい」と語られていた。

今回、気候変動研究の最前線で活躍されている阿部会員の講演を通して、「将来予測」研究の重要性を改めて認識した。第四紀学の発展とともに、これまで様々なプロキシを通して過去の環境変動に関する知見が幾つも蓄積されてきた。その成果を生かし、社会に還元する手段の1つとして、環境変動の「将来予測」が挙げられる。今後、環境問題や災害に対して関心が集まる社会のニーズに応えるには、より精度の高い「将来予測」に対して十分に生かせるデータを提供する研究が第四紀学には求められるのではないだろうか。

●山田真嵩（首都大学東京 都市環境科学研究科博士前期課程）

2015年8月29日（土）、早稲田大学14号館102号室にて、日本第四紀学会2014年学術賞受賞者講演会が開催された。講演者は、阿部彩子会員であった。

阿部会員には「第四紀の氷期・間氷期サイクルの謎を追って」というタイトルで、氷期・間氷期サイクルと古気候モデリングに関する研究について講演された。

講演は阿部会員が研究をはじめのきっかけとなる学生時代のエピソードからはじまった。学部時代は氷河期～現在にかけての地球各地の環境変遷を学び、その後環境変遷の要因について明らかにしたいという思いから、学部の専門を地球物理学・気象学に転向した。博士時代はスイスにて学ばれ、氷河やグリーンランドの氷床を観測されるなど、フィールドにおいても力を発揮された。

続いての具体的な研究内容についての講演では、まず研究の背景となる基礎的な研究から最新の研究まで簡単にレビューをされた。続いて、氷期・間氷期サイクルと古気候モデリング研究について紹介して頂いた。研究の背景となる基礎的な研究として、これまでの古気候研究のルーツとな

る Alfred Lothar Wegener や Milutin Milankovic を例に挙げ、第四紀変動の基礎となる日射量変動について紹介された。

最新の研究では、日射量の増加時に二酸化炭素が増加していることや、日射量の増加に伴う気温上昇に対する氷床量の応答がヒステリシス（履歴依存）の関係にあることなど、日射量と他の気候要素や氷床との関係がしきりに議論され、日射量変動が第四紀の氷期サイクルに強く影響を及ぼすことを述べられた。また、氷床と大気の間にはいくつかの相互作用が働いており、その一つとして高度・質量収支フィードバックがあることを説明して頂いた。それらの要素を加味したうえで地殻変動と氷床の増減タイミングを見てみると、アイソスタシーにより地殻が上がりきる前に氷床が消失していることが予想され、氷期から間氷期への移行期での氷床の消失が早いことを指摘された。このことから日射量に代表される外的要因と地球の粘性等の内的要因を組み合わせることで議論をおこなうことが重要であると述べられた。

本講演では、氷期・間氷期サイクルと古気候モデリングに関する一連の研究についての成果と背景について学ぶことができた。特に印象深く残ったのは、古気候を明らかにするには、多方面で報告される世界各地の研究を集め、考察しなければならないということだ。このような総括的な研究は、多数におよぶ研究のレビューと膨大なデータを扱わねばならず、成果の輝かしさの裏側には多大な労力があることが想像できる。過去を記す地層や氷床に残る情報は不完全な場合もあり、研究者はそれを読み解き、他地域との相関性やモデリングをおこなうことで、より確実性の高い情報に転換していかなければならない。観測記録のない長い時間にまたがる地球上の現象を評価するには、地球物理学・地球化学の知見と、地質学的な時間スケールでの考え方が不可欠であり、それらを総括的に扱う第四紀学の視点が重要であることを改めて感じた。

◆日本第四紀学会 2015年大会 若手・学生発表賞の報告

今大会は INQUA 大会の直後ということでポスター発表だけとなりましたが、発表賞には学生部門に3件、若手部門に4件のエントリーをいただきました。

昨年と同様に審査は大会終了後に行われ、次の方の受賞が決定しました。おめでとうございます。若手部門の受賞の該当はありませんでした。

厳選にご尽力いただいた審査員の皆様には紙面を借りて御礼申し上げます。

◎ポスター発表賞 学生部門 山田真嵩会員

「テフロクロノロジーによる栃木県北部中部更新統塩原層群の堆積年代の検討」

（著者：山田真嵩会員・鈴木毅彦会員・井内美郎会員）

**◆ 2015 年学会賞・学術賞受賞者講演会のお知らせ**

期日：2016 年 1 月 30 日（土）13:25～16:45（参加費無料、申し込み不要）

会場：東京大学本郷キャンパス理学部二号館講堂

（会場詳細は [http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_06\\_02\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_06_02_j.html) をご参照ください）

- 13:00～ 受付開始
- 13:25～13:30 開会挨拶
- 13:30～14:15 学会賞受賞講演：小池裕子 会員  
「第四紀学的アプローチ –マダガスカルのエピオルニス調査を例にして–」  
（受賞件名：貝殻成長線、安定同位体、脂肪酸、mtDNA などを用いた先史生態学に関する一連の研究）
- 14:15～15:00 学会賞受賞講演：松浦秀治 会員  
「ジャワ原人の古さを探る –年代論争の終結へ向けて–」  
（受賞件名：インドネシア・ジャワと日本の人類遺跡に関する年代学的研究）
- 15:00～15:15 休憩
- 15:15～16:00 学術賞受賞講演：藤原 治 会員  
「津波堆積物の科学」  
（受賞件名：完新世の内湾堆積物中の津波堆積物に関する一連の研究）
- 16:00～16:45 学術賞受賞講演：百原 新 会員  
「後期鮮新世以降の環境変化と日本列島の植物相の形成過程」  
（受賞件名：大型植物化石を用いた植物相変遷の研究）
- 16:45 閉会

なお、講演会前（10:00～13:00）に評議員会の開催を予定しています。

**◆ 2015 年度第 2 回評議員会案内**

下記の日時にて、日本第四紀学会 2015 年度第 2 回評議員会が開催されます。

評議員の方には後日通知が送付されますが、会長経験者ならびに名誉会員の方も評議員会に出席し、意見を述べる事ができますので、ご検討ください。

日時：2016 年 1 月 30 日（土）10:00～13:00

場所：東京大学本郷キャンパス理学部二号館第二講義室

議事（予定）：

- (1) 2015 年度活動および会計中間報告
- (2) 組織改革委員会報告
- (3) 顕彰関係の選考委員について
- (4) 新しい研究委員会（2015-2019）の設置について
- (5) その他

\*なお、当日 13:25 より同じ棟にて学会賞学術賞受賞者講演会が開催されます。

会場への行き方については、上記の「◆学会賞・学術賞受賞者講演会のお知らせ」をご参照ください。

**◆ 2016 年学会賞・学術賞候補者推薦募集**

2016 年の「日本第四紀学会賞」（以下「学会賞」）と「日本第四紀学会学術賞」（以下「学術賞」）の受賞候補者の受付を開始いたします。両賞は、学会賞受賞者選考委員会が、推薦された候補者の中から受賞候補者を選考し、2016 年 4 月または 5 月に開催予定の評議員会において受賞者が決定され、2016 年総会で表彰される予定です。

「**学会賞**」：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動及び学会活動に貢献した正会員に授与。  
学会における最高の賞。毎年若干名。

「**学術賞**」：第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著者（研究グループ等を含む）によりなされた場合は、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

つきましては、下記要領ならびに日本第四紀学会ホームページに掲載されている「日本第四紀学会学会賞規定」及び「日本第四紀学会学会賞と学術賞選考に関する内規」をご参照の上、「**学会賞**」及び「**学術賞**」の候補者をご推薦いただきますよう、お願い申し上げます。長年にわたりご活躍・ご尽力されてきた方、第四紀学に関連する研究分野を広く世間に広めた方、誰も解決できなかった課題に明快な解答を与えた方、これまでになかった新しい考え方や研究手法を取り入れて成果を出された方など、広くご推薦をいただきたくお願いいたします。ご自分の周囲や専門分野だけでも、この人こそ受賞者にふさわしいという方があれば、ぜひご推薦ください。歴代受賞者につきましては、第四紀学会ホームページの以下のサイトをご覧ください。

<http://quaternary.jp/intro/gakkaisyo.html>

1. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「**学会賞**」の場合には候補者名及び具体的な業績や活動内容を示した受賞件名と推薦理由（600～800字程度）を、「**学術賞**」の場合には候補者名及び受賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名と推薦理由（600～800字程度）を記入してください。

2. 推薦書類の提出先

郵送の場合：

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階

日本第四紀学会 学会賞受賞者選考委員会 宛

電子メールの場合：daiyonki(at)shunkosha.com

電子メールの件名に「日本第四紀学会 学会賞受賞者選考委員会 宛」と明記の上、推薦文はテキストファイルの添付書類で送付してください。

3. 推薦書類の提出期限 2016年1月31日（日）【必着】

## ◆ 2016年論文賞・奨励賞候補論文推薦募集

2016年の「**論文賞**」と「**奨励賞**」の推薦を下記のとおり受付けます。これらの賞は、過去2年間の「第四紀研究」に掲載された論文と著者が対象になります。会員の皆様から自薦・他薦によって候補論文と候補者をご推薦いただき、論文賞受賞者選考委員会において受賞候補論文・受賞候補者の選考を行います。受賞論文と受賞者は、2016年4月または5月に開催予定の評議員会において受賞者が決定され、2016年総会で表彰される予定です。

「**論文賞**」：会員を含む論文著者全員に授与。毎年1～2件程度。

対象は掲載された全ての論文（短報を含む）。

「**奨励賞**」：会員である筆頭著者に授与。年齢は2016年4月1日時点で35歳以下。毎年1～2件程度。

受賞者には副賞として5万円の奨学金も授与されます。

つきましては、下記要領ならびに日本第四紀学会ホームページに掲載されている「日本第四紀学会学会賞規定」及び「日本第四紀学会論文賞と奨励賞選考に関する内規」をご参照の上、「**論文賞**」の候補論文と「**奨励賞**」の候補者をご推薦いただきますよう、会員各位にお願い申し上げます。これまでの受賞者につきましては、第四紀学会ホームページの以下のサイトをご覧ください。

<http://quaternary.jp/intro/ronbun.html>

1. 選考対象：「第四紀研究」第 53 巻（2014 年）及び第 54 巻（2015 年）に掲載された論説、短報、総説、資料、講座及び特集号の論文。「論文賞」の場合には、著者に会員が含まれることが必要。「奨励賞」の場合は、筆頭著者が 35 歳以下の会員であること。
2. 推薦書類：推薦書類には、推薦者名（自薦を含む）、賞の名称、「論文賞」の場合には全著者名と候補論文名（巻号頁を明記）及び推薦理由（500～800 字程度）を、「奨励賞」の場合には候補者名と推薦論文名（巻号頁を明記）及び推薦理由（500～800 字程度）を記入してください。
3. 推薦書類の提出先  
郵送の場合：  
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階  
日本第四紀学会 論文賞受賞者選考委員会 宛  
電子メールの場合：daiyonki(at)shunkosha.com  
電子メールの件名に「日本第四紀学会 論文賞受賞者選考委員会 宛」と明記の上、推薦文はテキストファイルの添付書類で送付してください。
4. 推薦書類の提出期限 2016 年 1 月 31 日（日）【必着】

### ◆日本地球惑星科学連合 2016 年大会のお知らせ（第 1 報）

2016 年 5 月 22 日（日）～5 月 26 日（木）に日本地球惑星科学連合 2016 年大会が幕張メッセで開催されます。第四紀学会では「ヒトー環境系の時系列ダイナミクス」を単独で、「活断層と古地震」を共同で主催予定です。ほかにも第四紀関連セッションが多数提案されています。

会員の皆様の積極的な参加を期待しています。

大会に関する詳細は [http://www.jpгу.org/meeting\\_2016/](http://www.jpгу.org/meeting_2016/) をご覧ください。

今後の主な日程は下記の通りです。

- 12 月 21 日（月）開催セッション・コマ割り web 公開
- 1 月 7 日（木）投稿・参加登録開始
- 2 月 3 日（水）投稿早期締切（～ 24:00）
- 2 月 18 日（木）投稿最終締切（～ 12:00）
- 3 月 7 日（月）採択通知 ※7 日より順次配信
- 3 月 10 日（木）発表プログラム web 公開（予定）
- 5 月 10 日（火）早期参加登録締切（～ 17:00）
- 5 月 12 日（木）予稿 PDF 公開（予定）

【投稿料】※カッコ内は税込料金

- ▶早期投稿：2016 年 1 月 7 日（木）～2 月 3 日（水）24:00  
投稿料 ¥3,000（¥3,240）/1 件（図の掲載 ¥500（¥540）/1 件）
- ▶通常投稿：2016 年 2 月 4 日（木）～2 月 18 日（木）12:00（正午）  
投稿料 ¥4,000（¥4,320）/1 件（図の掲載 ¥500（¥540）/1 件）

【早期参加登録料】※カッコ内は税込料金（2016 年 1 月 7 日～5 月 10 日 17:00）

- ▶会員割引料金
 

一般全日程：	¥21,000（¥22,680）	一般一日券：	¥13,000（¥14,040）
小中高教員全日程：	¥11,000（¥11,880）	小中高教員一日券：	¥7,000（¥7,560）
大学院生全日程：	¥11,000（¥11,880）	大学院生一日券：	¥7,000（¥7,560）
- ▶正規料金 ※大会会員は正規料金です。会員割引はありません。
 

一般全日程：	¥30,000（¥32,400）	一般一日券：	¥21,000（¥22,680）
小中高教員全日程：	¥18,000（¥19,440）	小中高教員一日券：	¥13,000（¥14,040）
大学院生全日程：	¥18,000（¥19,440）	大学院生一日券：	¥13,000（¥14,040）
- ▶AGU, AOGS 会員



JpGU の会員割引料金で参加していただくことができます。

【参加登録料】※カッコ内は税込料金 (2016 年 5 月 10 日 17:00 ~ 26 日)

▶会員割引料金

一般全日程： ¥28,000 (¥30,240)	一般一日券： ¥18,000 (¥19,440)
小中高教員全日程： ¥15,000 (¥16,200)	小中高教員一日券： ¥10,000 (¥10,800)
大学院生全日程： ¥15,000 (¥16,200)	大学院生一日券： ¥10,000 (¥10,800)

▶正規料金 ※大会会員は正規料金です。会員割引はありません。

一般全日程： ¥40,000 (¥43,200)	一般一日券： ¥25,000 (¥27,000)
小中高教員全日程： ¥24,000 (¥25,920)	小中高教員一日券： ¥18,000 (¥19,440)
大学院生全日程： ¥24,000 (¥25,920)	大学院生一日券： ¥18,000 (¥19,440)

▶同伴者 全日程： ¥2,000 (¥2,160) 一日券： ¥1,000 (¥1,080)

### ◆日本第四紀学会 2016 年大会案内 (第 2 報)

日本第四紀学会 2016 年大会は、下記の日程で開催予定です。

詳細や発表の申込方法などにつきましては、次号の第四紀通信に掲載いたします。

開催期間：2016 年 9 月 17 日 (土) ~ 9 月 20 日 (火)

開催場所：千葉大学西千葉キャンパス・けやき会館

日 程：

9 月 17 日 (土) シンポジウム・一般研究発表 (口頭およびポスター)・総会・懇親会

9 月 18 日 (日) シンポジウム・一般研究発表 (口頭およびポスター)

9 月 19 日 (月) シンポジウム・一般研究発表 (口頭)

(シンポジウムは第四紀学会 60 周年記念シンポジウムを検討中)

9 月 20 日 (火) 巡検

### ◆研究委員会の募集のお知らせ

研究委員会は、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループです (下記内規参照)。また、国際第四紀学連合 (INQUA) の Commission、International Focus Group 及び Project などに対応する国内組織としての役割を果たすことを目的としています。現在、INQUA には下記の 5 つの Commission が設置されています。

Coastal and marine processes (CMP)

Palaeoclimate (PALCOMM)

Human and Biosphere (HaBCOM)

Stratigraphy and Chronology (SACCOM)

Terrestrial Processes, Deposits and History (TERPRO)

それぞれの Commission の活動内容の詳細および 2015 年まで活動していた International Focus Group 及び Project については、INQUA のホームページ <http://www.inqua.org/> の「Commissions」のタブをクリックした後に、各 Commission のページをご覧ください。

研究委員会の設置期間は、INQUA 大会終了後の評議員会から次の INQUA 大会終了後の評議員会までの 4 年間です。ただし、現在検討中の学会の組織改革の結果によっては、設置期間の途中で体制の見直しを指示される可能性がありますのでご承知おき下さい。設置された各委員会は、会合開催など委員会活動を支援するための予算 (1 委員会につき 5 万円を上限とする) を毎年申請することができます。

研究委員会の設置を希望される場合は、下記内規を参考に、委員会名、提案者名 (5 名以上の正会員)、代表者名、連絡先、活動目的、4 年間の活動計画概要、予想される参加者数、2015 年度計画 (2016 年 2 月 ~ 2016 年 7 月: 予算案含む) を明記の上、2015 年 12 月 31 日までに電子メールで幹事長の吾妻 (t-azuma(at)aist.go.jp) 宛にお申し込み下さい。提案頂いた委員会の設置については、次回の評議員会 (2016 年 1 月 30 日に開催予定) で審議されることとなります。現在の研究委員会の活動は次回評議員会までとなりますので、活動の継続を希望する場合にも新規に申請して下さい。

研究委員会内規

1. 研究委員会は、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。当分の間、国際第四紀学連合 (INQUA) の研究委員会 (Commission) における諸活動に対応する国内委員会としての役割を果たすほか、IPCC、IGBP などの関連する国際組織への対応を目的に含めることとする。
2. 研究委員会の設置は、少なくとも 5 人以上の正会員からの申し出に基づいて、幹事会から評議員会に提案され、評議員会の承認を得るものとする。
3. 研究委員会の発足を希望する会員は、委員会名、代表者、連絡先、目的、活動予定期間、活動計画、支出計画、予想される参加者数などを文書で幹事会に申し出るものとする。
4. 研究委員会の目的を推進するために、学会は財政的に可能な範囲内で、研究委員会の活動費を 4 年を限度として交付する。
5. 研究委員会の任期は INQUA 後の最初の評議員会から次の INQUA 後の評議員会までの 4 年間とする。
6. 研究委員会は、集会の開催通知や活動記録などを「第四紀通信」に掲載することとし、集会は一般会員にも公開することを原則とする。
7. 研究委員会の代表者は毎年年度末までに活動報告、会計報告および次年度の活動の希望の有無を幹事会を経由して評議員会に文書として提出しなければならない。
8. 研究委員会の代表者は対応する INQUA の Commission 等に活動成果などを報告するとともに、その内容を INQUA 終了後に幹事会を経由して評議員会に文書として提出する。
9. 研究委員会の運営は代表者に一任するが、この内規で処理できない点については、幹事会と協議するものとする。

◆ INQUA プロジェクト等の募集

2016 年の INQUA 国際フォーカスグループ (IFG)、プロジェクト、研究技術移転 (Skill enhancement) への応募が 2015 年 12 月末頃に締め切られます。応募は下記コミッションのプレジデント宛に年内に提出することになります。まず、各プレジデントに応募様式の送付をお願いするとともに、コミッション毎の締切日を確認してください。

INQUA によるプロジェクト等への支援は、一年間一件あたり数千ユーロで、支出の対象はプロジェクト等が開催する研究集会への若手研究者・発展途上国研究者の参加支援にほぼ限られます。研究集会や巡検に関わる若干の経費が認められることもあります。支援の主旨は、既存の研究プロジェクトや研究集会の補助であり、研究の遂行そのものの補助ではありません。詳細は下記各コミッションリーダー、あるいは奥村晃史 (前副会長) にお問合せください。

INQUA の支援は seed money と呼ばれ、少額ではありますが、日本の研究成果を世界の第四紀研究コミュニティに発信して研究交流を進めるための貴重な資金ですので、この機会に是非応募をご検討下さい。

プロジェクトリーダーと日本からのメンバー (メールアドレスの◎を @にかえてください)

Coastal and Marine Processes Commission  
 Dr Craig Sloss, Queensland University of Technology  
 c.sloss ◎ qut.edu.au  
 横山祐典 (VP)、東京大学大気海洋研究所  
 yokoyama ◎ aori.u-tokyo.ac.jp

Humans and Biosphere Commission  
 Dr Nicki Whitehouse, Plymouth University  
 n.whitehouse ◎ qub.ac.uk  
 出穂雅実 (VP)、首都大学東京  
 izuhom ◎ tmu.ac.jp

Palaeoclimate Commission

Atte Korhola, University of Helsinki  
 atte.korhola @ helsinki.fi  
 阿部彩子、東京大学大気海洋研究所  
 abeouchi @ ccsr.u-tokyo.ac.jp

Stratigraphy and Geochronology Commission  
 Mauro COLTORTI, University of Siena  
 coltorti @ interfree.it  
 熊井久雄  
 hkumai @ sakai.zaq.ne.jp

Commission on Terrestrial Processes, Deposits, and History  
 Alessandro Michetti, Universita dell'Insubria  
 alessandro.michetti @ uninsubria.it  
 吾妻 崇 (VP)、産業技術総合研究所  
 takashi\_azuma @ mac.com

INQUA 前副会長 奥村晃史、広島大学  
 kojiok @ hirosshima-u.ac.jp

## ◆日本学術会議 第23期 第2回地球惑星科学委員会 INQUA 分科会報告

1. 日時：平成27年7月7日（火）10:00～12:00
2. 会場：日本学術会議5-A会議室（1）
3. 出席（敬称略）：奥村（委員長）、斎藤（副委員長）、原田（幹事）、小口、北里、小嶋、佐竹、佃、春山（以上委員）、遠藤、町田、小野、吾妻、太田（以上オブザーバー）
4. 議題等
  - 4.1. 前回議事録の確認
  - 4.2. INQUA 名古屋大会準備状況について  
 斎藤副委員長から資料を用いて詳細な説明がなされた。  
 参加国数約70カ国、発表約1800件、13会場で実施。過去最大規模。  
 巡検は期間中15～20件を実施予定。  
 会場係に100名ほどの学生サポーターの申し込み。  
 Future Earth Session の内容を詰める必要。  
 プログラム最終版を7月12日（月）以降公開。
  - 4.3. INQUA 名古屋大会および関連行事への対応について  
 斎藤副委員長から資料を用いて詳細な説明がなされた。  
 7月5日（日）の一般普及講演会「第四紀学で読

み解く地球の歴史」には八十数名の参加。  
 6月26日（金）開会式への天皇皇后両陛下の御臨席についてプレスリリース。  
 7月26日（日）天皇皇后両陛下をお迎えしてレセプション（名古屋観光ホテル）。  
 7月27日（月）開会式。開会式参加者は事前登録者のみで約900名。

### 4.4 その他

奥村委員長から次回のINQUA開催国および執行部役員選挙について  
 次回開催候補国：スペイン（サラゴサ）、イタリア（ローマ）、アイルランド（ダブリン）。  
 執行部役員選挙は、会長（1名：アメリカ合衆国・日本）と副会長（4名：イタリア・ベネズエラ・オランダ・中国）。投票方針を検討した。  
 国際評議員会の委員メンバーの意見を重視してはどうか？  
 国際評議員会にアジアからのオブザーバー参加を求める。  
 新規加盟の可能性、アジアからの参加の困難さについて。

## ◆2015年度第1回幹事会 議事録

日時：9月27日（日）10:00～13:15  
 会場：明治大学駿河台キャンパス グローバルフ

ロント C6 会議室  
 出席：小野（会長）、斎藤文紀（副会長）、奥村（副

会長)、卜部(編集)、米田(行事・企画)、小荒井(渉外)、吾妻(幹事長)、須貝(渉外)、齋藤めぐみ(広報)、百原(庶務・議事録)、伊津野(事務局)

欠席：植木(会計)、兵頭(顕彰)、藤原(編集)、小森(行事・企画)

<議事>

(1) 今年度の活動予定の確認(幹事長)：今年度の幹事会の開催方法、主要行事(評議員会、学会賞講演会、60周年記念大会)、組織改革・会則改定、顕彰(功労賞、名誉会員の選考)を確認した。

(2) 会員消息確認(事務局)：入会・退会を承認し、所属・住所異動を確認した。

(3) 後援依頼承認(事務局)：第20回「震災対策技術展」への後援を承認した。

(4) 第四紀研究編集(編集)：編集委員会開催と編集状況の報告。54(5)(特集号)3校目 54(6)総

説1短報1を定期刊行見込み。論説7短報3を含む11編を査読・編集中。依頼原稿の確認。

(5) 第四紀通信(広報)：12月発行分No.6に掲載する記事の執筆担当、提出期限を確認。

(6) 2016年大会(千葉大学、9/17～20)の準備(行事・企画)：期間、会場の確認。準備方法について協議。第2回評議員会での提案にむけ60周年記念事業委員会で実施方法を検討することとした。

(7) 2015年度行事について(行事・企画)：第2回評議員会・受賞者講演会(1/30)の日時、場所の確認。放射性炭素年代測定法講習会を開催予定。第60回大会(千葉大)にあわせた普及講演会について検討した。

(8) 日本地球惑星科学連合大会準備(渉外)：第四紀学会が主催母体の2セッション提案準備、セッション共催提案等について確認、協議を行った。

(9) その他(事務局)：春恒社との業務委託契約についての確認方法を検討した。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ(memekato(at)kahaku.go.jp)宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ  
〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 FAX：029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル10階  
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176